

【論文提出者】 社会文化科学教育部 人間・社会科学専攻 公共政策学領域
氏名 黒田 伸太郎
【論文題目】 自治体職員の創造的な業務外活動に関する実証的研究

【授与する学位の種類】 博士（公共政策学）

【論文審査の結果の要旨】

博士学位の申請にあたって提出された黒田伸太郎氏の論文「自治体職員の創造的な業務外活動に関する実証的研究」は、地域課題に取り組む市町村職員による非公式な業務外での諸活動に着目し、それを“創造的業務外活動”と定義し、その意義と可能性を明らかにするとともに新たな職員像を提示することを目的とするものである。既存研究の分析により理論的な議論を進めながら、事例調査等を通じて実証的な検証を行っている。

第1章では、自治体職員の業務外活動をどう捉えるかについて、ガバメントからガバナンスへの移行という議論を含めて先行する議論の検討を通じて、創造的業務外活動の概念を整理し、この活動の意義と可能性を明らかにするという研究の目的を提示している。続く第2章では、創造的業務外活動の意義と可能性を検討するための論点整理をしている。そこでは、創造的業務外活動の基本的構成要素を改めて捉え直し、「職員」としての活動であること、「私的」な時間の活動であること、「外」での活動であること、「柔軟な統合（シームレス）」という公私や官民その他の境界を越えた寛容な活動であることを見出している。その上で、1）制度的課題、2）活動の必然性、3）活動の可能性について検討し追究すべき課題を提示している。

第3章では、2章で提示された課題を明らかにするため、以下の4点について——創造的業務外活動は受け入れられているか、創造的業務外活動によってどのような変化が生じるか、創造的業務外活動が持つ意義、創造的業務外活動は地域社会にどのような影響を与えるか——詳細な調査を行っている。第4章では、ここまでの議論を整理し、創造的業務外活動が発現するための要件を見出している。すなわち、1）非公式性：インフォーマル、2）自発性：セルフモチベーション、3）愉しさ：プレイフル、4）柔軟な統合：シームレス、の4点である。この要件の中に出てきた非公式性が活動の成否を大きく左右すると捉え、「官民」に代替すべき検討軸として「公式非公式軸」を提示し、発現要件とこの軸を基に、創造的業務外活動実践モデルを提示する。これによって、従来の業務外活動イメージを更新し、官のアクターである職員が公私の領域をその状況に応じてシームレスに往還しつつ、基本的には非公式な活動によって活動の意義を認めながら、自発的に当該活動へと身を投じるという活動スタイルを提示している。これが本論文の提示する一つの重要な成果であるが、第5章では議論の総括と到達点及び課題の提示をしている。

本研究は、これまであまり学問的に取り上げられてこなかった自治体職員の業務外活動を広い視点から多面的、包括的に分析・検討を行うことで、この活動の意義と可能性、さらには活動発現の要件を示したものである。広い意味では行政学における自治体職員論に位置付けられるが、従来の研究視角に加え、ローカルガバナンス論及び政策起業家論等の議論、さらには、学際的な知見を援用し、時代が変化する中で検討が求められている自治体職員像そのものをリ・デザインする考え方を示した。このことにより、行政学、公共政策学、自治体研究等における職員研究のパースペクティブを拡張し、当該研究分野の発展に寄与したといえる。そのため、分野間を横断して先行研究を検討しておりその労力も十分な評価に値する。十分に取り上げられていない議論が一部指摘できるが、本研究の意義を損なうものではない。以上、黒田氏の論文を本委員会は高く評価し、博士論文として適格であると判断する。

【最終試験の結果の要旨】

2023 年 1 月 16 日 14 時 30 分より文学部法学部棟小会議室において審査員全員出席のもとで口述試験を行った。

黒田氏に対して、審査委員から、根本的な部分である「業務外」という視点や「創造的」の意味するところに対する質問や、創造的業務外活動として捉えられる活動が特殊なものなのか一般性を持ちうるものなのかについての質問、業務外活動を期待することは職員に対して過重な負担を強いることになるのではないかという疑問、自治体職員の本来業務と業務外活動を包括するような概念の必要性への疑問等が提示された。それに対して、黒田氏は的確な、あるいは、納得できる説明によって答えている。また、自治体職員の業務外活動としては専門職が組織を超えた横のネットワークを通じて行っている活動や地方議会との関係に対する議論が欠落しているとの指摘もあり、論文全体の議論を損なうものでないものの課題として残された。

この最終試験の結果、申請論文が博士の学位にふさわしい水準にあり、かつ申請者に研究者として十分な能力があることが確認された。よって、本審査委員会は一一致して、黒田伸太郎氏が博士（公共政策学）の学位を授与されるにふさわしいものと判断し合格とした。

【審査委員会】

主査	渡部	薫
委員	伊藤	洋典
委員	島村	玲雄
委員	土肥	勲嗣
委員	明石	照久